

政治権力で学校を思うままに

橋下知事
「維新の会」

「上意下達のロボット学校」つくる「教育支配条例」提案へ

橋下「維新の会」が「教育基本条例」を府議会に提出へ

府議会でも多数を占める大阪「維新の会」が、「教育基本条例」（及び「職員基本条例」）なるものを9月の府議会に提出しようとしています。

報道された「条例骨子」によれば、その内容のポイントは「政治が適切に役割を果たす」ことで、「愛国心にあふれる人材を育てる」ことを基本理念としています。つまり、知事と議会が「政治主導」で各学校の教育目標を設定し、教育委員も罷免する、府立高校正副校長を5年公募を前提に「多様な」人材を登用し、その政治の意になつた校長が教員採用も行う、逆に意に沿わない教職員は簡単に「処分」するなど政治権力が教育を直接に左右しようとするものです。さらに「学校間競争の促進としての学区制撤廃」や「3年連続で定員割れの府立高校を統廃合」など競争激化や高校で学ぶ権利を奪うことまでこの「条例」で決めるとしています。

条例骨子には「命令」「権限強化」「罷免」「処分」という用語がちりばめられています。政治権力による脅しや命令で「教育の中立性」を乱暴に踏みじり学校を思うままにする意図を隠していません。

まさに「上意下達のロボット学校」をつくる「教育支配条例」です。

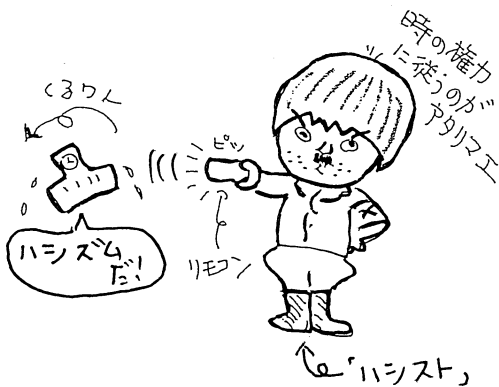
「政治権力で教育をほしのままにする」ことは間違いです

教育は長期の視野に立った「継続的な過程」であり、真理・真実、良心に基づき「子どもの最善の利益」を追求して行われるべきものです。脅しや命令、強制によって左右されてはなりません。教育の現場には自主性、自発性、創意が保障された自由闊達（かつたつ）な環境が保障され、それぞれの学校が子ども・生徒の発達や実情に則して最善と判断する「教育の目標」を各学校で設定できることがなにより重要です。

そのためには教育が政治権力のときどきの動向に左右されることなく、相対的な独自性、中立性を保つことは当然のことであり国際的にも確立した原則です。アメリカではキリスト教原理主義が支配する一部行政が公立学校での「進化論」教育を否定していますが、「維新の会」の条例はこうしたことへの道をひらくものです。

教員採用にも不公正・偏向が横行します

「府立高校の全正副校長を公募」するにあたって、時の政治権力が人事権を左右します。例えば「維新の会」につながる人物を大量にリクルートすることも簡単にできるようになります。そして、その校長が新規教員採用（一次選考）まで行います。こんな「コネ」や不公正、偏向がまかりとおるようなやり方を許していいのでしょうか？



2011.9.1 v1.3d

大阪府立高等学校教職員組合（府高教）

TEL 06-6768-2106

E-mail: fukokyogoiken@yahoo.co.jp

橋下「維新の会」が「教育支配条例」 - 府民の声きかず「学区撤廃」「府立高校統廃合」も条例で決定

競争激化、学校つぶしが「民意」?!

教育を政争の具とせず、少人数学級など学校を支える条件整備こそ直ちに

「学区撤廃」、「府立高校つぶし」は子どものためになりません

「学区制の撤廃」は学校間格差を広げ、歪んだ競争を激化させるだけです。社会全体として必要とされる優れた学力水準、「卓越性」の確保にもつながりません。これは高校段階で学校間格差のないフィンランドや韓国が国際的学力試験 PISA で日本を上回る成果を収めている一事で明らかです。いま必要なことは、序列化、競争の激化ではなく、すべての子どもたちに必要な学力の水準を保障して、自立と社会参加への道を開くことです。そして、若者に働く場を確保することこそ。政治にもつとも求められていることです。

「人気のない高校は統廃合」という乱暴な議論も高校で「学ぶ権利」を否定するものです。学ぶ意欲のあるすべての希望者に全日制高校での教育の機会を保障するのは当然です。受け入れに余裕ができたというのなら、圧倒的多数の府民が望んでいる少人数学級の実現こそ、直ちに行うべきです。

「維新の会」が主張する「学校つぶし」に関連して、一部地域では早くも現在ある府立高校の廃校と、その校地の売却先が話題となっています。「教育改革」に名を借りて府民の財産が切り売りされ政治権力につながる特定の人たちの利権の対象とされることにも注意を払う必要があります。

教育を政争の具とせず、学校を支える必要な条件整備を

この「条例」は骨子、素案といわれるものが一部公表されるだけで、その全体は明らかとなっておりません。中卒生数等に依拠してこれまで毎年調整(増減)されてきた各府立高校の募集学級数までも、定員割れと「統廃合」を促進するため「学級減を禁止する」という姑息(こそく)な措置まで検討されています。このようなことが府民の目に触れないまま決められてよいのでしょうか?

府議会で多数を占める橋下「維新の会」ですが、この条例についても全くマニフェストには掲げられていません。マスコミも「秋の大阪ダブル選挙をねらったパフォーマンス」と報道しています。大阪府教育委員会のトップ、中西教育長すら「大混乱が起きる」と反対しています。

「上意下達のロボット学校づくり」や「競争の激化」や「学校つぶし」は「民意」ではありません。「教育をゆがめるな」の声を上げましょう。

府民要求をふまえて、少人数学級の実現はじめ教育を支える必要な教育条件整備をはかることこそ府議会のもっとも大切な役割ではないでしょうか。条例案の撤回を求める大きな世論を府議会に集中しましょう。

